

ふるさとの農林漁業体験 支援事業について



次の **1** から **3** の内容を全て取り入れた県内の子どもとその保護者を対象とした食育推進活動を行う団体に対して支援を行っています。

1 体験・交流を通じた県産農林水産物の生産・流通等の理解促進活動

農林漁業体験、市場見学、料理実習やそれらに携わる人との交流など、地域の特色を生かした魅力ある体験型の食育推進活動を実施。

2 リスクコミュニケーション活動

県産農林水産物の安全安心の取組や放射性物質の正しい情報や知識を身につけるための活動を実施。

3 体験・交流を通じた県産農林水産物の生産・流通等の理解度評価

1 及び **2** の参加者を対象に、県産農林水産物の生産・流通等に関する理解度についてアンケート調査を実施。

留意事項

- ◎ 取組の対象者の半数以上は 18 歳以下の子ども
- ◎ 補助の上限額は 1,100 千円
- ◎ 避難地域 12 市町村またはそれ以外の浜通りでの実施、また、東日本大震災により避難している子どもが活動に参加できるよう配慮された事業計画を優先的に採択



その他、本事業については、以下までお問い合わせください。

お問い合わせ先 **福島県農林水産部農産物流通課**

〒960-8670 福島県福島市杉妻町 2-16

☎ 024-521-7354

✉ ryutsu.aff@pref.fukushima.lg.jp

🌐 <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035a/>



体験型の 食育推進 活動を 応援します！

ふるさとの農林漁業体験 支援事業について



東日本大震災及び原発事故の影響により子どもを対象とした体験型の食育推進活動の減少、さらには、生活環境の変化に伴う県民の健康指標の悪化や地域社会の活力の低下が懸念されています。

そのため、県内の子どもやその保護者が農林漁業体験等を通じて、身近にある食に関心・愛着を持ち、また、食の安全性について自ら判断する力を養うことにより、豊かで健康的な食生活を実践してもらうことを目的に、食育や地産地消に関する体験活動を行う団体に対して支援しています。

福島県



(令和 8 年 3 月 発行)

令和7年度は、11の食育推進活動を支援しました。その一部の事例を紹介します！

県北

生育～収穫・調理体験 コキアはたけの学校

自分で作った野菜の美味しさや作り手側の苦勞、自然の豊かさを肌で感じてもらうこと、コキアの魅力を体験してもらうことを目的に実施しました。

畑の手入れから、ジャガイモ・トウモロコシなどの野菜の収穫や、コキアでは食用とんぶりの試食やほうきづくりを行いました。

親子は農家顔負けの真剣な顔つきで作業に取り組み、実施後のアンケートでは、「普段の生活では体験できないことを子どもたちに経験させられて良かった」といった声がありました。



みやぎ生協（コープふくしま）
参加者：43名うち子ども24名

会津

収穫・調理体験 親子でリンゴ収穫体験

地元農産物や農業の魅力に触れることで、豊かで健康的な食生活や地産地消に対する意識醸成、安全安心な農作物に対する理解促進を目的に実施しました。

圃場でのリンゴの収穫体験や、収穫したリンゴを使用したジュース絞り体験を行いました。また、子どもたちにもわかりやすい内容で放射能に関する講義を行い、リンゴに関するクイズも実施しました。

子どもたちはとても楽しんでいて、実施後は、「他の果物の収穫体験もやってみたい」といった声や、県産農産物が安全だという理解が深まったといった声をいただきました。



会津若松市
グリーンツーリズム・クラブ
参加者：44名うち子ども25名

県中

収穫・調理・販売体験 ふくしまの食を収穫して味わおう！ 親子収穫体験



収穫した農産物がお店に並ぶまでの流れを学んでもらうことで、食材を選ぶ大切さや農産物の魅力を感じ、食への理解を深めてもらうことを目的に実施しました。

圃場にて生産者からさつまいもの栽培方法や品種を学び、収穫体験、放射能検査の見学、袋詰め、店頭へ品出しといった体験を行いました。

店頭で陳列した後、自分が袋詰めした商品が売れるかどうか見守っている子どもたちの姿が印象的でした。参加した親子からは、「安心安全なものを選ぶ力を学ぶことができた。」「食卓と農業が身近に感じられた。」といった声を聞くことができました。

農産物直売所ベレッシュ
（株式会社東日本地所）
参加者：22名うち子ども11名

南会津 会津

収穫・調理体験 ほか 来て！見て！あ・い・づ 地元生産者とふれあい学ぶ！ 食育学習バスツアー



食育や地産地消を学んでもらうことを目的に、このツアーを実施しました。

「南会津コース」では、鱒釣り体験から、釣った魚を塩焼きにして味わうとともに、地元野菜を使ったピザづくり、ピザ窯に使う薪割りを行いました。

子供たちは地産地消を肌で感じながら、地元食材を美味しく食し、県産食材への理解を深めていました。

参加者の方からは、「食べているもの（野菜など）を誰が育て、どのように食卓に並んでいるのかを考えるようになった」「子どもが家でも料理の手伝いをしてくれるようになった」といった声をいただきました。

会津トラベルサービス株式会社
参加者：62名うち子ども32名

いわき

畜産・製造体験 ほか 親子でふれる食と農の体験プログラム 親子で学ぶ福島食と安全

生産から流通・販売・消費に至る一連の過程を実際に体験することで、食材の背景や地域資源に対する理解を深めてもらうことを目的に実施しました。

かまぼこ工場での見学・製造体験や、乳牛・牛の乳しぼり、子牛への乳やり体験を行いました。また、いわき震災伝承みらい館の職員や生産業者の方から、食の安全性や大切さ、風評被害からの復興についてお話していただきました。参加した子どもたちは、復興が進み、風評が払拭されて嬉しかったことを職員の方に質問しており、その前向きな姿に感動しました。

この事業を通じて、身近にある食や地域資源に関心や愛着を持つきっかけになったのではないかと思います。



NPO法人わくわく
参加者：104名
うち子ども84名

相双

収穫体験・農家見学 ほか 原子力災害被災地域での農業および 食材づくり体験を通じた 食育活動

高校生を対象に、農家の視察、稲刈りや味噌づくりを体験してもらうとともに、生産者の思いや放射線対策を学んでもらうことで、地域活力に寄与することを目的に実施しました。

参加した高校生は、野菜農家や米農家、畜産農家の視察に興味津々な様子で参加していたほか、稲刈りや味噌づくりといった農業体験では、安全性と生産者の取り組みを学んでいました。

実施後は、葛尾村の産品や農業に対する理解が深まったという声があったほか、本事業をきっかけに、農作業に参加するようになった高校生もいました。



一般財団法人専力創造舎
参加者：30名うち子ども20名